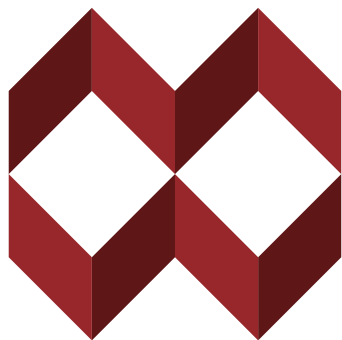




HACHINOHE GAKUIN

CAMPUS

vol.29

キャンパス八戸学院

八戸学院



3/9(土)オープンキャンパス開催



平成24年度 全国高等学校総合体育大会 第62回 全国高等学校アイスホッケー競技選手権大会
2013年1月22～26日 駒宮市アイスアリーナ・豊田アイスアリーナ・柳井アイスアリーナ



資格取得小型移動式クレーン講習



子供フェスタ「ミニ・オペレッタ」開催

— Contents —

法人

- ・新理事長表敬訪問

八戸学院大学

- ・階上町との連携協力協定締結
- ・平成25年度八戸学院大学入学式
- ・都市農山漁村交流型シンポジウム
- ・人間健康学部公開講座

八戸学院短期大学

- ・平成25年度八戸学院短期大学入学式
- ・外崎充子新学長に聞く
- ・子供フェスタ「ミニ・オペレッタ」開催
- ・街づくりコンペティションにて審査員特別賞受賞

八戸学院光星高等学校専攻科

- ・平成25年度学生会総会・交通安全教室
- ・資格取得小型移動式クレーン講習

八戸学院光星高等学校

- ・平成25年度八戸学院光星高等学校 新スタート
- ・冬季スポーツ成績報告等
- ・アイスホッケー部・スピードスケート部
- ・第56回全国高校選抜レスリング大会出場

八戸学院野辺地西高等学校

- ・平成25年度八戸学院野辺地西高等学校入学式
- ・交通安全講話
- ・スキー、スノーボード教室

階上町との連携協力協定締結

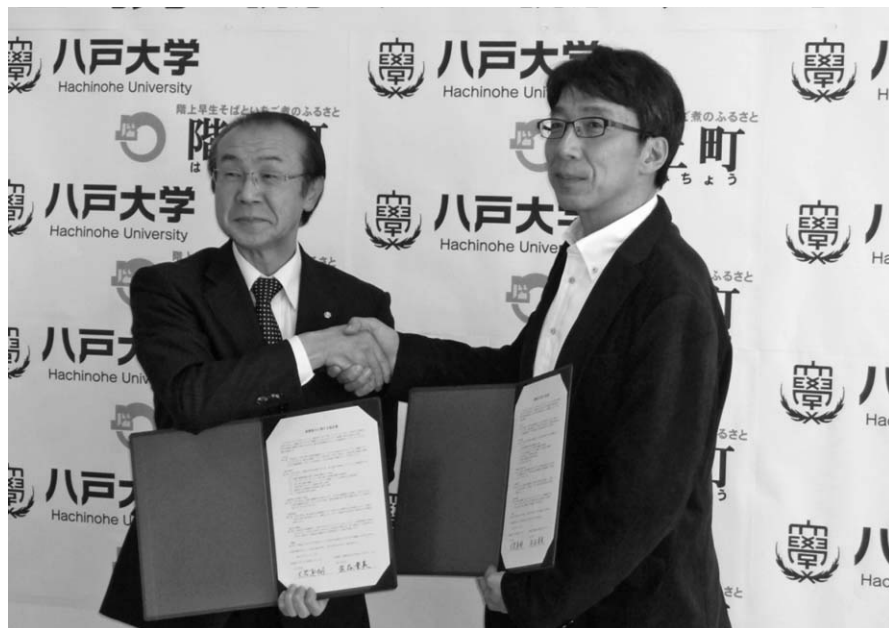
八戸大学は平成25年3月19日、包括的な連携のもとにそれぞれが保有する情報、ノウハウ等を用いて相互に協力し、生涯学習の推進と地域住民の健康増進、スポーツの活性化による社会発展に貢献す

ることを目的として、階上町と連携協力協定を締結した。これは、地域に根ざした高等教育機関を標榜する本学と、まちづくりや健康づくりおよびスポーツの振興発展を目指す階上町が、情報交換・共

同研究、イベントの啓発活動や参加協力、そして施設ならびに指導者の有効活用などを通じて、新たな幅広い協力関係を円滑に進めるための協定である。

調印式には、本学から大谷真樹学長、階上町からは浜谷豊美町長、久保和子副町長が出席、大谷学長と浜谷町長が協定書にサインをし、今後の連携に向けて握手を交わした。

調印式後の記者会見では、大谷学長から地域に立地している大学としてお互いの持つ資源を有効に活用し、更なる発展を目指し連携を強化して取り組みを進めたいと述べられた。



新理事長表敬訪問

4月1日までに関係機関に理事長就任のご挨拶を済ませることができました。また、この4月1日を機に各校舎に「八戸学院」という校名が掲げられ、多くの新入生を迎えることができ、殊更今年は新たな気持ちで新年度を迎えました。

入学式が終わり、法人内の幼稚園から大学まですべての学校に出向いてみました。幼稚園では、幼児の元

気がかわいらしい挨拶に思わず顔が緩んでしまいました。高校では、どの教室も先生も生徒も一体になった授業をみました。野辺地キャンパスはこの冬の大雪の影響で、破損の箇所が痛々しい。改めて48年の風雪に耐えた校舎に歴史を感じますが、清潔に掃除行き届いた教育環境でした。この日、野辺地町長さんを訪ね就任の挨拶と日頃のご協力ご指導に感謝を申し上げてきました。光星高校では、門

馬教頭先生が案内役を務めてくれた。どの教室も生徒の姿勢は立派で安心した。事務の皆さんの出迎えにはホントに感心です。これなら訪問者の皆さんの対応も安心です。

短大に足を踏み入れると、伝統に包まれた貫禄さを感じる。地域に根ざした短大は半世紀の歴史を経て、今年は校舎のリニューアルを考えたい。その足で、専攻科へ。社会人入学生を多数抱える福祉科

は、緊張感の漂う授業であった。自動車科の自動車実習は実習場を無駄なく展開した授業で生徒の充実感を感じた。自室に戻る途中、美保野のキャンパスの中央にある停留所で、たばこの吸い殻を拾う職員を見た。キャンパスがいつも良い環境を保ち続けているのは、事業部の職員の皆さんと学園サービスの社員の皆さんのお陰と思い感謝です。

今日は五月の連休明け。例年の気候とは違って寒い。いつもは葉桜の時期ですが、桜の花は寒さに耐えるように枝にしがみついているようだ。夕方は晩冬の景色を思わせるような美保野のグランドの風景である。そのグランドには真新しいユニフォームに身を包んだ高校の硬式野球部が100人ほど整然と並んで準備運動中であった。リーダーの号令一下全員声を揃えて、手を揚げ足を挙げ体をねじりスキップしている。

訓練の行き届いた部員の元気な挨拶を受け、しばし寒さを忘れる一時であった。



三村申吾青森県知事(右側)、法官新一理事長(中央)、古川聡事務局長(左側)

都市農山漁村交流型シンポジウム

八戸大学は、平成24年度総務省の「域学連携」地域づくり実証研究事業に採択され、八戸市に隣接する三戸郡新郷村と連携した人材育成事業を進めています。この総務省の事業は、学生と教員が地域の現場に入り込み、地域の住民とともに、地域の課題解決又は地域づくりに継続的に取り組みながら、地域の活性化及び地域の人材育成に資する活動を目的としており、本学においては単位認定を行うことができるフィールドワークの授業を平成25年度から開講予定としています。

そしてこの授業を開講するに当たり、「これからの農山漁村地域の活性化に求められる「域学連携」による人材育成」

と題したキックオフイベントを平成25年2月9日に新郷村美郷館で開催しました。

同イベントでは、新郷村須藤良美村長から八戸大学との交流事業による期待について報告され、次いで総務省人材力活性化研究会委員の館逸志氏、東京農業大学教授の木村俊昭氏、株式会社TW北海道代表取締役の宮本圭一氏、本学副学長の丹羽浩正教授による基調講演およびパ

ネルディスカッションが行われました。このうち丹羽教授は、大学と地域が連携する「カレッジリンク構想」を説明し、学生においてはコミュニケーション力を身に付け、住民にとってはよそ者の力、若者の力を感じることで、双方に“気づき”を与えるような人材育成に寄与する交流が期待されると報告されました。



人間健康学部公開講座

3月9日午後1時より八戸ポータルミュージアム「はっち」シアター2において、平成24年度八戸大学人間健康学部公開講座が開催されました。5回目を迎える今回は、テーマを「未来へのメッセージ～健康と福祉を考えよう」とし、前半で運動と栄養から健康を考え、後半で今

日の福祉の在り方について考えることとしました。また、これら教員による講座に加え、毎回好評である学生による発表も行われました。当日は八戸市民の方々約70名のご参加をいただき、活発な質疑応答がなされました。

なお、演題および演者は次の通りです

(発表順)。「健康のための運動について」渡邊陵由講師。「健康のための食生活について」井元紀子准教授。「種差海岸の自然に触れよう！—学生たちの記録—」大河美津紀・工藤大輝・菅原千聡・林沙織(熊谷ゼ2年)。「地域の健康調査～南部町での報告～」作田貴博・小野寺佳織

(スポーツ科学コース)。「放射線被ばくに対する不安の実態—緊急被ばく医療における看護職の役割—」小村緑(短大看護学科仁木ゼミ)。「社会保障をめぐる課題と社会福祉士の役割」村田隆史助教。「福祉における行動的な実践、その意味を感じる」篠崎良勝准教授。

会場で実施したアンケートには、「次回も参加したい」「開催場所がよかった」などのご意見を多数いただきました。平成25年度からは短大看護学科と合同開催になります。これらご意見を踏まえて、身近な健康問題をテーマに公開講座の準備をしていきたいと思っています。



平成25年度 八戸学院大学・

平成25年4月6日(土)、平成25年度八戸学院大学・八戸学院短期大学入学式が八戸市公会堂において挙行され、八戸学院大学146名（ビジネス学部53名：編入学生1名含む、人間健康学部93名：編入学生1名含む）と八戸学院短期大学226名（幼児保育学科107名、ライフデザイン学科30名、看護学科89名）の新入生が、本学の学生としての第一歩を踏み出しました。

入学生宣誓では、大下華澄さん（光星学院高校出）が新入生を代表して力強く宣誓。

大谷真樹八戸学院大学学長からは、「皆さんは、無限の選択肢と挑戦する権利、そして何度でも失敗する自由を持っています。勇気を出して挑戦し、大いに失敗しようではありませんか。

そのフィールドが未来につながる場所、八戸学院です。」との式辞。

外崎充子八戸学院短期大学学長からは、「皆さんは今日から八戸学院の大きな輪の中の一員です。組織に所属し、組織に守られていることを自覚し、一人一人が誇り高く自分の存在感を発揮されるよう、期待いたします。」との式辞。

今年度は校名変更に伴い、幼稚園から大学まで、名称とシンボルマークの統一と、これまでと大きく変わります。

この校名変更は立体的学院創造の理念に基づくもので、新シンボルマークは、濃淡2色のえんじ色で数字の8を横にしたデザインになっており、八戸を愛する心や無限の可能性を込め、郷土の菱刺をモチーフに連続性を表現しています。

新しく生まれ変わった八戸学院大学・

短期大学を引っ張っていく新入生に期待します。



理事長 法官 新一

平成25年度 入学式



八戸学院短期大学入学式



入学生宣誓 新入生代表 大下 華澄



八戸学院大学 学長 大谷 真樹



八戸学院短期大学 学長 外崎 充子



歓迎のことば 在学生代表
人間健康学部3年 天間琴音 幼児保育学科2年 市澤 祐哉



歓迎のことば 幼稚園児代表
右から、安田 芽留ちゃん、原田 悠叶くん
小野愛衣羽ちゃん、角谷 優奈ちゃん

平成24年度 八戸大学・八戸短期大学学位記授与式

平成24年度八戸大学・八戸短期大学学位記授与式が3月18日(月)八戸市公会堂において行われ、卒業生308名に学位記が授与されました。

平成24年度の卒業生は、大学はビジネス学部61名・人間健康学部44名 計105名、短大は幼児保育学科97名・ライフデザイン学科25名・看護学科81名 計203名。

始めに八戸短期大学幼児保育学科卒業生5名によるピアノの卒業演奏が行われ

ました。

式典では、八戸大学 大谷真樹 学長と八戸短期大学 蛇口浩敬 学長が代表者に学位記を授与し、その後、各学部長・学科長により卒業生全員に学位記が手渡されました。

次に大学の学長賞・優秀賞、短大の理事長賞・学長賞など各賞受賞者が紹介されました。

大谷学長が、未来を担う諸君は人一倍果敢に変化に立ち向かわなければなら

い、そのための方法を最後の教えとして式辞を述べました。

中村 覺理事長の挨拶、小林 眞八戸市長の祝辞に続いて、八戸大学 人間健康学部人間健康学科 内沢美沙紀さんと八戸短期大学 ライフデザイン学科 村崎夏代さんが卒業生を代表して謝辞を述べました。

最後は高らかに学歌を斉唱。式典を終えた卒業生たちは、新たな道へ進んでいきました。



平成25年3月9日(土)にオープンキャンパスが美保野キャンパスで行われ、高校生、保護者あわせて123名が参加しました。3月の開催は昨年に続き2度目となります。

今回は What's 八戸大学・八戸短期大学をテーマに、キャンパスの雰囲気、ひとり暮らし情報、サークル活動など高校生からの事前アンケートにこたえる形で



オープンキャンパス開催

行いました。

サークル活動紹介では、ダンスサークル TWINKLE がダンスを披露、キャリアサポート研究会が参加者全員とアイスブレイクを、One World Circle がアメリカ海外研修説明などを行いました。



教員紹介ではビジネス学部バリー教授とアンソニー講師が登壇し、八戸大学・八戸短期大学の雰囲気や英語の授業などについて分かりやすく説明しました。

また、ビジネス学部玉樹真一郎先生には4月からの着任前にひとあし早く、任天堂 Wii[®] 開発の経験をもとにしたミニ講義を行っていただきました。そのほか、毎回人気の在学生フリートーク、個別相談やキャンパス見学が行われ、参加者には八戸学院大学・八戸学院短期大学への進学を含めた進路決定の情報となったようでした。

今年度は、7月27日(土)、9月28日(土)、来年3月9日(土)の開催です。

平成24年度 大学・短大外郭3団体合同懇談会開催

八戸大学・八戸短期大学の外郭3団体合同懇談会が、2月1日(金)八戸プラザ

アーバンホールで開催され、両学の後援会・同窓会・父母の会の役員約70名が一



同に会した。合同懇談会は、大学・短大の状況を報告すること、3団体役員の懇親を深めることを目的に毎年実施されている。

懇談会では3団体を代表して山田政信八戸大学後援会会長が、改革を進める大学・短大を外郭団体として引き続き支援していきたい

と挨拶した。

続いて本学院から中村覺理事長が、大学・短大の様々な改革の取り組みと新年度から始まる校名の統一・変更や新体制について報告し、今後のご支援とご協力をお願いして挨拶した。

蛇口浩敬大学・短大運営会議議長から、大学・短大の近況について報告がなされた。

その後、中川原俊雄八戸短期大学後援会会長の乾杯の発声とともに、和やかに懇談が行われた。

また、大谷八戸大学学長から、大学の詳しい近況が報告された。

出席した役員は、両学や各団体の近況について活発に情報を交換し、役員同士の交流を深めた。

2月16日(土)に八戸プラザホテルにて「第7期起業家養成講座」の修了式が行われた。起業家養成講座は「10年で100人の起業家を青森から」を目標に、昨年10月24日から第7期が開講し、全13回が終了し受講生6名が修了証書を受け取った。第7期では、本学ビジネス学部から1名、本短期大学ライフデザイン学科から1名の学生が受講した。

講座最終日には、総合研究所客員研究員の井上英昭氏(ビートレンド株式会社代表取締役社長)が講義を行った。井上氏は起業の心構えや起業の際に重要な事などを自身の経験をもとに講義を行い、「最後に勝利者として残るのは、最後までやめなかった人だけ。成功するまで止めなければ、それはまだ失敗していないし、止めた時に失敗が確定する」、「成功

第7期起業家養成講座修了

するビジネスとは、スケラビリティのあるしくみになっているビジネスである」と話した。井上氏の講義後、受講生による起業案のプレゼンテーションを行い、ベンチャーキャピタリストである外山和恵氏(フューチャーベンチャーキャ

ピタル株式会社 新規事業開発部)より評価・アドバイスをいただいた。講座終了後には、本講座のOB・OGを交えた懇親会が行われ、活発に情報交換・意見交換が行われた。



I T教育研修会2013 ~ What to do わっつど ~

平成25年2月22日(金)、八戸ポータルミュージアムはっちで「I T教育研修会2013 ~ What to do (わっつど) ~」を開催しました。八戸地域の教育関係者を中心に約50名が参加し、地域の情報教育について研修しました。

I T教育研修会は、八戸地域における情報教育コミュニティの基盤作りを目的に開催しており、今回で9回目を迎えます。今回は、タブレット端末の実習、学校でのSNS活用事例紹介、情報モラルをテーマとしたパネルディスカッションの3セッションが行なわれました。

■セッション1 実習

「ここが変わった！」

Windows 8 とその可能性」

ソフトバンクBB株式会社 千葉智久さんによる Windows 8 タブレットの実

習が行なわれました。実習では、Windows 8 の新機能の紹介やタッチ操作の基本手順などが紹介されました。

■セッション2 事例紹介

「八戸大学における

Facebook 活用事例」

八戸大学ビジネス学部教授 村本 卓先生による、八戸大学での Facebook 活用事例紹介を行いました。導入目的や学生に対する利用状況調査結果などが紹介されました。

■セッション3 パネルディスカッション

「どうする大人、ネット社会を

生きる子どもたちのために」

セッション3は、情報モラルをテーマとしたパネルディスカッションを行われました。パネラーには、高校教員として 遠藤 剛 先生(青森県立三本木農業高等学校教頭)、保護者として 下町三三夫 さん(企業組合パパママふあいと 代表理事)、学生として 小向伸介 さん(八戸大学ビジネス学部2年生)、大学教員として 村本 卓先生(八戸大学ビジネス学部教授)を迎え、コーディネー

ター 坂本貴博先生(八戸大学ビジネス学部准教授)の進行で意見交換がなされました。

ディスカッションで遠藤先生は、「既に自由に情報ツールを使える時代になっており、それをあえて止める必要は無い。ただし、ルールや自分の身を守るすべは教えていかなくてはならない。」と発言。また、子どもとのコミュニケーションについて下町さんは「大人が分からないことは、逆に子どもに聞いてみることも方法の一つ。そこから生まれる親子のコミュニケーションも大事。」と発言。会場からの活発な発言もあり、参加者それぞれの立場での意見交換がなされました。

研修会後には、情報交換会が行われ、日頃の出来事や課題などを共有・意見交換し、コミュニティ作りに向けた交流を深めました。



「八戸学院大学」OB&OG訪問 part29



株式会社 ひろの屋 代表取締役
下 学 坪 之 典 さん
(愛称 北三陸の海男児)

プロフィール

八戸商業高校 卒
八戸大学 商学部 19回生
株式会社 青森ダイハツモータース 直販営業
ソニー生命保険(株)
平成22年5月 株式会社ひろの屋 設立 代表取締役
八戸学院大学同窓会副会長

■学生時代の思い出を聞かせてください

スカラシップ奨学生第1号として、アメリカ(シアトル ハイラインCC)へ短期語学留学をしたことです。アジア諸国からの留学生や、その他の世界の人々と触れ合うことができ、グローバルに物事を考えることができるようになりました。

部活動はサーフィン部に所属し、地元の洋野町や、八戸近郊の海で、講義の合間も惜しんで海に入っていました。大学周辺は良い環境に恵まれ、勉強とサーフィンとの両立で4年間を楽しく過ごすことができました。

■社会に出て感じる心掛けていることはありますか

営業職を経験し、物を売るのではなく、自分を売るという大切さを学びました。モノが溢れている市場の中で、生産者の想いの詰まった「意思の入った商品」をお客様にお届けすることを心掛けていま

す。そして、生まれ育った地域に貢献する仕事をする中で、生まれ育った地元の想いを継ぎ、さらに次の世代へつないでいきたいと考えています。

「届けたいのは美しい海と人の心」愛する故郷への恩返し、株式会社ひろの屋 <http://hirono-ya.com> の仕事です。

北三陸世界ブランドプロジェクトに参画。海男児ブランドを立ち上げ、地元洋野町から1次産業を、その思いを発信する役割を担って駆け抜けていきます。

■後輩へのメッセージ

校名が変わり、新たなスタートをきった八戸学院大学。

チャレンジ精神が以前にもまして学院内に広まりつつある今、後輩の皆様も、失敗しても構わないので、新しいことにチャレンジする気持ちを持ってもらいたいです。

そして、何かひとつ夢を見つけてもらいたいです。

外崎 充子 新学長に聞く

4月に蛇口学長の後任として短期大学学長に就任しました外崎です。姓は「とのさき」名は「みつこ」、生まれも育ちも青森県です。短大に就任して12年目、幼児保育学科に属し、国語表現や児童文学、教職保育実践演習等を担当してきました。どうぞよろしくお願いいたします。さて、近年、少子高齢化が進み、短大の学生数も著しく減少してきました。平成13年に全国で42万人いた短大生が平成23年には15万人になりました。18歳人口に占める割合は6%だということです。本学は減少していませんが、どの短大も4年制大学と専門学校との狭間に立ち、独自性を打ち出して存在のアピールに努めているところです。

我が短大の特長の一つに地域性の強さが挙げられます。入学生の約80%が地元

の出身者で、就職も同率の学生が当地域に決めています。今年度はこの点に注目して、地域との連携をより深め、入口（入学）・出口（就職）のみならず、真ん中の学校生活においても地域に飛び出して活動の場を広げていく方針です。地域を研究学習の場にしたり、学生の意欲や喜びが増し、学習効果が大きく伸びることはすでに子どもフェスタやボランティアデー、健康フェスタ等で実証されているところです。

また、校名変更に伴う学院8校の結束にも積極的に加わっていく所存です。

一人一人の学生が学校の内外で「学ぶ楽しさ」を実感し、地域と共有することによって、少子化の波をも跳ね除けていきたいと願っております。



子どもフェスタ「ミニ・オペレッタ」開催



平成25年2月24日(日)に幼児保育学科2年生が「子どもフェスタ」に参加し、八戸市公会堂でミニ・オペレッタの発表会を実施した。このミニ・オペレッタは、幼児の行う小歌劇という意味で、大人の歌劇と根本的に違う点は、集団と集団の歌の対話により劇が進行して行く総合芸

術表現である。保育士養成校として、学生達が自信を持って職場で活躍できる“技術・能力”を身に付ける事を願って平成14年度から実施している。

学生達は全てにおいて工夫を凝らし、全て手作りでの実践活動を行っている。これらが子ども達に受け入れられるか、

また、職場で胸を張って働けるか、技術・技能の基礎はこの指導で大丈夫なのか、さらには、総合芸術としての専門知識・理解力・認識はあるか等々学生達は検討しながら、身体から漲る表現・演出を模索しつつ発表会を实践した。幸いにも八戸短期大学附属幼稚園をはじめ聖アンナ幼稚園、びわの幼稚園、第二しのめ幼稚園が私どもの力強い実践の場となっており、学生達の行動、表現力に大きな力が加わり、自信に満ちた和がひとつになり力強いエネルギーを発揮することができた。そして、子ども達に受け入れられた達成感・満足感によって、ようやく保育士としての自覚・風格が備わってきたようである。



八戸学院短期大学学生チームが

八戸市まちづくりコンペティション審査員特別賞受賞

平成25年2月23日(土)、はっち1階はっちひろばにおいて市内の学生が企画提案した活動の成果を発表する『学生まちづくりコンペティション表彰式』が行われ、本学ライフデザイン学科1年生野田詩織、繫佳苗、小笠原千佳子(チーム名: earth of H.T.D.)が参加、審査員特別賞を受賞しました。同チームは『地元葉「桑の葉」の活用による事業化と、利用拡大による地域の健康増進のための調査・支援事業』という活動の成果発表を行いました。

「1. 多様な参加者(障害をお持ちの方も)による「桑の葉ファーム」の実現可能性調査、2. 桑の葉オリジナル健康料理コンテストの開催、3. 桑の葉を使った新しいスイーツの開発、4. 桑の葉と健康、美容の関連性をメンバーがFacebookで公開、5. 市場に出回っている桑の葉商品の調査」をテーマに掲げ、活動。審査では「5つの明確な事業意図」と、今、注目されている「6次産業化までの具体的な計画と実行」を打ち出し、実践した所が高く評価され、市長や審査

委員長は今後の活動に期待したい、と述べました。

Earth of H.T.D.は小渡章好教授の指導により結成された地域貢献を目指す活動グループで、「八戸市学生地域貢献表彰制度助成金」に応募した提案が採択され、5つのテーマに



もとづいた多様な活動を展開しました。桑の葉オリジナル料理コンテストには60を超える応募が寄せられ、はっちに於いて4人の外部審査員による最終審査が行われました。この様子は新聞等にも大きく取り上げられ、最優秀作品のスイーツは現在も商品化の試行が続けられています。大学食堂、短大学生ホールで行われた八戸産桑の葉茶の無料試飲会では参加者から数多くの有益なアンケートが寄せられ、桑の葉を生活に取り入れて健康増進に活用すること、お茶としての魅力を高めること、桑の葉の理解を広めるための活動の進め方、などに大きなヒントが得られました。



平成24年度 看護学科就職相談会開催

平成25年3月6日(木)、本学総合実習館3階で看護学科2年生を対象に就職相談会が開催された。県内外の医療機関16施設の協力をいただき、学生は45名の参加であった。

参加された施設からは「学生は礼儀正しく、真剣な態度だった」、「大学の対応に感謝し、大学内での開催を来年度も継続して欲しい」などの意見が聞かれた。一方、学生からは「就職への意識が高まっ

た」、「就職したい病院のイメージが付いた」、「これから行く実習病院の特徴がつかめて、参考になった」など前向きな意見が多数聞かれ、就職に対する動機付けとなった。

看護学科が開設して、学内での開催は2回目であり、この就職相談会が就職への『橋渡し』となるように就職支援活動を今後も継続して行きたいと思っている。



食の専門家養成目指す

これは3月17日付けのデーリー東北新聞に私の研究室が紹介された時のタイトルである。記事にも書かれてあるように本学科は栄養士や調理師を養成する機関ではないため食品の栄養成分の検出や研究をする、というような指導ではなく、まずは地産地消を前提に地元の食材や郷土料理などについて調べ、それらをテーマにゼミ活動を進めていき、一方で「食」に関連した資格取得を目指すことにしている。但しレベル的に段階があるため「フードコーディネーター」の資格取得には第一段階として「食生活アドバイザー3級、2級」の資格取得をし、これ

らに合格すれば「フードコーディネーター」に挑戦することを勧めている。ところが記事にあるように掲載された二人のゼミ生達は途中から就活をしていくうちに学科で提案している「フードコーディネーター」ではなく「フードアナリスト」を取得した。それはアナリストの場合、合格後も継続して協会に入会することでより身近な職種であるフードライターや食育講師への資格取得の機会が得られるという理由から導入したものであるが、現に今年の2年生は食生活アドバイザーもフードコーディネーターの資格もすでに取得し、目下フードアナリスト

の受験に備えて勉強中である。

「食の専門家」といっても特別のことではなく、日常の食生活を見直すための「知識の習得」であり、それが「資格」に繋がり「自信」へ導くのだと考えている。



八戸学院短期大学 新入生宿泊研修

平成25年4月9日(火)～10日(水)に奥入瀬溪流ホテルにおいて、1泊2日の八戸学院短期大学新入生宿泊研修が行われた。この宿泊研修は、「新入生相互ならびに教職員・リーダー学生との親睦を図る」「学生生活および学修の方向付けを行う」ことを目的として毎年4月に行われており、今年度で7回目の開催となった。

1日目は、研修Ⅰ：出会いのワークショップ、研修Ⅱ：学歌研修、学生会企画が行われた。研修Ⅰの出会いのワークショップでは、人とコミュニケーションをとる力や人とのつながりをつくることを目的としてレクリエーションが行われた。最初は少し緊張気味の新入生も、リーダー学生の活発な進行に引っ張られて徐々に笑顔になり、楽しんで色々な学生と会話をしたりグループ活動に参加する姿がみられ、新しい友人関係の構築ができたようである。研修Ⅱでは、本学の音楽の教員から学歌の歌唱指導を受けた。学歌を始めて歌うため、音程やリズムを掴むことに苦労する姿も見られたが、最後には全員で1番から3番まで合唱し、

更にしっかりと覚えていきたいとの意欲がみられた。夕食の後に行われた学生会企画では、短大生活の主要行事や実習などの紹介、サークル紹介、学生会歓迎セレモニーが行われ、新入生はリラックスした雰囲気の中で学生生活への理解を深めている様子であった。また、毎年、全学科の1年生が参加している八戸小唄流し踊りの実技指導も行われた。

2日目は、研修Ⅲ：交通安全講習会、学科研修が行われた。研修Ⅲ：交通安全講習会では、リーダー学生による昨年度の短期大学生における交通事故状況説明の後、安全運転のための技術と心構えに関するDVD視聴を行った。冬のスリップ事故の危険性についての説明やDVD



における自動車事故の惨状を目の当たりにし、安全運転への意識を高めている様子が伺えた。学科研修では、それぞれの学科の特色を活かした内容が企画され、新入生は学生生活や勉学に対する方向付けができたようである。

入学から間もない日程で新入生にとっ

ては緊張から始まった宿泊研修であったが、2日間のプログラムを無事に終えたころには心もほぐれ、心地よい疲労感とともに帰路についたことと思う。新たな仲間とともにそれぞれの夢に向かって充実した短大生活を送ってほしいと願う。



八戸学院光星高等学校専攻科

平成24年度 修了証書授与式

平成25年3月13日(水)午前10時より八戸大学学生会館において自動車科第38回生22名と、介護福祉科第20回生31名の修了証書授与式が挙行されました。

自動車科、介護福祉科共に就職希望者



全員の就職内定が決まっております晴れ晴れとした表情で巣立って行きました。今回の修了生一同は東日本大震災のあった年に入学しており、当時ガソリンが不足していた時でもあり、少なからずこの震災の影響を受けた方が多数おりました。その様な状況の中で入学式を迎えた学生であり、非常に印象残るものがありました。したがって、学生一人ひとりがこの二年間を無事に乗り越えた事に感謝しながら修了式を迎えました。

また、介護福祉科の委託訓練生21名は、専攻科受け入れ二回目の修了生となりますが、家事に、子育て、学業、施設実習



と本当に大変な二年間を乗り越え、無事に修了し国家資格を手に入れた様子は自信にみなぎった表情でありました。

修了生一同より、就職活動に使用して欲しいと本校一階ホール「就活コーナー」にパソコンなどが記念品として贈られ、後輩を想う温かい心遣いに日渡校長代行より“大切にに使わせて頂きます”とお話がありました。

好天に恵まれた平成25年3月5日(火)～3月7日(水)の三日間、本校の校舎及び中庭において小型移動式クレーン運転技能講習が行われ、自動車科1年生全員(11名)が無事に修了し資格を得ることができました。また、この講習の講師方々の熱心な指導は勿論のこと、学生一人ひと



小型移動式クレーン運転技能講習

りが真剣にこの講習に取り組んだことがこのようなこの結果に結びついたと思っております。そもそも小型移動式クレー



ンとは、走行とクレーン操作(動力で荷をつり上げ、つり荷を水平方向に運搬すること)が可能なクレーンの中で、つり上げ荷重1トン以上5トン未満の移動式クレーンのことをいいます。この資格を取得することにより、自動車業界のみならず多方面での活躍の場が増えることになります。

また、本校自動車科の学生の中には、このような資格を生かした職場を希望する者が年々増加傾向にあり、進路選択に大いに役立っております。

交通安全教室の開催

平成25年4月30日 八戸学院大学学生会館において、本校の全学生を対象に交通安全教室が実施されました。受講生は自動車科、介護福祉科合計100人でした。今回は「自動車・バイク通学等の運転者として安全運転の自覚を持つ」をテーマにし、八戸警察署の交通安全教育係長の丸山特久剛氏が講話を実施して下さいました。その内容は、車を運転している場合の



注意力の大切さ・道路交通法の遵守及び人間一人ひとりの命の尊さ及び重さについてでありました。学生の一人はこの講話を真剣に聞き「これからは、さらに交通事故にならぬよう注意して運転しよう」と決意を新たにしていました。

学生総会の実施

平成25年4月30日 八戸学院大学学生会館において、交通安全教室が終了後に本校の学生会の総会が行われました。主な内容は昨年度の収支決算報告・新年度の予算案の審議・新年度の行事及び新役員の紹介等でした。また、新学生会長の前田裕真君は、今以上にボランティア活動の一つであるプルタブやペットボトルの回収に特に力を入れたいので、更なる学生一人ひとりの協力が必要だと訴えておりました。



八戸学院光星高等学校

平成24年度 光星学院高等学校卒業証書授与式

平成25年3月1日、本校体育館にて平成24年度卒業証書授与式が行われました。290名の卒業生が厳粛な雰囲気の中、多くの方々に見守られながらそれぞれの新たな進路に向かって、光星学院高校を旅立ちました。また、式に臨む卒業生の堂々とした姿は、光星学院高校で三年間過ごし立派に成長した様子を感じさせるものでした。

卒業生を代表して保育福祉科の高松紅葉さん（三条中出身）が三年間の思いを込め答辞を読み上げました。卒業生退場の場面では、各クラス、感謝の気持ちを前面に出し、そして名残惜しそうに式場を出ていきました。次年度から校名が代わり、光星学院高等学校という校名での最後の卒業式でもあり、今までになく感慨深いものとなりました。

（平成24年度3学年主任 松尾 博文）



答辞を読む、高松 紅葉さん



送辞を読む、生徒会長 貝森 翔馬さん



アイスホッケー部

インターハイを終えて

第62回全国高等学校アイスホッケー競技選手権大会が平成25年1月23日(木)から26日(日)の日程で、北海道釧路市に於いて開催された。今年度のアイスホッケー部は、1年生7名、2年生7名、3年生6名の計20名で構成され、青森県予選を準優勝して全国大会の出場権を獲得した。大会は全国から28チームが出場し、トーナメント方式で行われる。1月7日の抽選の結果、1回戦は宮崎県の日章学園であったが、けが人による選手不足で、大会不参加が決定した為、不戦勝となった。2回戦は、同じ青森県から参加した八戸工業高校を14-0の大差で破った、地元釧路市の強豪校、武修館高校に決定した。ベスト8をかけた試合は、第1ピリオド12分過ぎに失点したものの、その後は全員で守り切り、僅か1失点で終えた。続

く第2ピリオドは、相手チームにペースを握られ、前半に2点を奪われたが、キャプテン田村や2年生の磯谷の活躍で2点を奪い返し、トータル3-2の1点差で終えることができた。1点差を追う第3ピリオドであったが、強豪校の実力とスピードに翻弄され、最終的には7-2の5点差で敗退となった。結果は目標のベスト8には届かなかったが、全国選抜大会3位の武修館高校と中盤まで互角に戦えたことは大きな自信になった。来年の八戸大会に向けて夏場の陸上トレーニングに力を

入れ、また、合宿や北海道遠征などを行い昨年度以上の成績を残せるよう頑張りたいと思います。

（アイスホッケー部顧問 館 長作）



5-1

スピードスケート部

平成24年度 県高校総体 男子3年連続団体優勝 女子13年ぶり団体優勝

平成24年度本校スピードスケート部は、県高校総体において、男子は3年連続団体優勝、女子は13年ぶりの団体優勝という輝かしい結果を残し、伝統復活を感じさせた年になりました。

昨年度の部員数3年生3名、2年生3名、1年生1名の計7名での活動でした。春先からの陸上トレーニング、スライドボード、自転車、馬淵川河川敷でのローラースケートなど多岐に渡る練習内容で体力作りに励みました。

『陸トレを制するものは氷を制する』という佐々木良幸コーチ（本学院職員）の檄のもとに厳しい練習を行いました。

夏場は、北海道帯広、秋は青森市、盛岡市に遠征し、スケートの滑りの感触を確かめました。長根リンクを利用し



H24国体にて 丹波佳奈美選手(先頭)



H24国体にて 金濱竜聖選手(中央)

練習は12月に入ってからであり、近い将来、八戸市に室内スピードスケートリンクが完成し、より充実した練習ができることを願っております。

スケートシーズンは12月から2月末までの3カ月間であり、その期間は毎週のように大会が開催されます。青森県の大会は勿論のこと、昨年度は東北大会で男子団体は準優勝、女子は団体第3位の結果を収めました。

また、北海道釧路市で行われたインターハイでは、表彰台が期待された金濱竜聖（専修大学1年）は、男子1500mで第4位という結果に終わり、表彰台を逃してしまいました。しかし、その悔しさをバネに、その後、高校生としては出場するのが難しいジャパンカップ第4戦と第5戦に出場することができました。日本で行われる最高峰のゲームで、1500mでは自己ベストを更新し、第8位入賞という結果を収めることができました。全国のスケート関係者からもお褒めの言葉を戴き、このまま順調に伸びればオリンピック候補にも名前が挙がる可能性も出てきました。それほど素晴らしいスケーティングを見せてくれました。

今年3月に卒業した西澤奎佑（八戸学院大学1年）、丹波佳奈美（同）は新設されるスケート部に所属し、今後もスケート競技を続ける予定であり、大変心強く思っております。立場は違いますが、お互いに切磋琢磨して青森県のスピードスケートをより盛り上げてほ



H24年度県高校総体

しいと思っております。

さて、平成25年度は冬季インターハイが八戸市を中心として開催されます。スピードスケートは長根リンクが会場となります。よく、『氷都八戸』という言葉に耳にしますが、その言葉に恥じないように、今後厳しいトレーニングを重ねていく覚悟です。

最後に、本校スケート部は保護者会の皆様のご協力とご理解、そして、OB会の皆様のご支援があってこそその部活動だと強く感じております。OB会の皆様には自分の時間を削ってでも選手達に対して指導をして頂き、本当に頭が下がる思いで感謝の気持ちで一杯です。

今後とも本校スピードスケート部に多大な応援をよろしくお願いいたします。

（スピードスケート部顧問 早川公男）



H24国体にて 西澤奎佑選手(先頭)

STEP BY STEP

現代は、急激に国際化・情報化が進み、英語を使う能力が必要不可欠な時代となりました。確かな英語力を身につけるためには、やはり日々の積み重ねが重要です。そして、年に3回、自分の英語力を確認するために、本校では英検受験を積極的に呼びかけてきました。受験する生徒は特別進学コースの生徒が中心ですが、

近年は他コースからも多数の生徒が受験しております。難関の2級にも合格者が出てきており、昨年度は5人合格しました。また、準2級合格者も順調に増えてきており、今後に期待が持てます。

（英語科主任 池川 亮）

平成24年度英検取得者数

2 級	5 名
準2級	31 名
3 級	26 名
4 級	1 名
計	62 名

平成 25 年度 八戸学院光星高等学校 新スタート

八戸学院光星高等学校に校名が変わり第1回目の記念すべき平成25年度の入学式が、4月8日P.T.A・後援会・同窓会・中学校関係者をはじめ多数の保護者が出席される中、本校体育館において挙行されました。普通科184名、保育福祉科122名、ビジネス科31名、工業技術科60名の合計397名が、橋場校長より入学を許可されました。校長は式辞の中で「3

年間、本校での感動と出会いを大切にしたい。」と熱く語り、また、法官理事長からは「校名変更の意味と地域および社会に貢献ができ、地域に根ざした生徒になってほしい」と期待の言葉を頂きました。

また、新入生代表で高橋亜宗君（階上中出身）からは、「八戸学院光星高等学校の生徒として学校の校則をきちんと守

り、自己の目標に向けて一生懸命努力します」と力強い宣誓がありました。

式終了後は、歓迎セレモニーが行われ、八戸学院短期大学付属幼稚園児4名によるかわいいお祝いの挨拶や、本校チアリーディング部による華麗な演技が行われ会場を盛り上げてくれました。

さて、八戸学院光星高等学校は今年度の入学者を合わせると、1151名在籍となり、県内1の生徒数を有する高校となりました。私達教員は、校訓である「正義賢明 剛毅」を常に生徒に意識させ、個性の尊重と県内で一番活気のある学校でかつ楽しい学校の構築をめざし、生徒一人一人の夢を夢で終わらせないということを、日々着実に実践していきたいと考えております。また、日頃から常に校長が、述べている「生徒とともに積み重ねる日々の小さな感動が、お互いの人生を豊かにするという『感動クリエイター』としてあり続ける」ということも意識し、平成25年度も努力したいと考えております。

(教頭 門馬 修)



全国高校選抜レスリング大会結果報告

平成25年3月27日～29日、新潟市で行われた第56回全国高校選抜レスリング大会に出場しました。2月に行われた東北選抜大会を準優勝し全国大会の出場権を獲得した我々は、初戦突破を最低目標とし、全国の舞台へ挑戦しました。全国大会で勝てるチームを作るため、合宿や練習試合を繰り返しました。非力だったチームも東北選抜大会準優勝を期に、徐々に自信が生まれ、チームにまとまりが出るようになってきました。勢いを持って臨んだ全国選抜大会。初戦はシードであったため、2回戦からの登場。対

戦校は香川県・多度津高校。完璧ではなかったものの、自分の戦い方に集中し、勢い負けをしなかったことで、4対3の接戦ながら勝利を上げることができました。続く3回戦は群馬県館林高校。激戦区の関東ブロックを2位通過してきた実力のある対戦相手。ポイントゲッターの55kg級小西、60kg級葛西が一瞬の隙を突かれ敗退。次の66kg級山野内が勝負強さを見せ勝利するものの、74kg級川原、84kg級中森が善戦むなしく敗退。120kg小野が不戦勝だったため2対5のスコアで3回戦で敗退しました。相手チームの細かい組み手さばきからの多彩な技、勝負強さ…完敗でした。しかし、この闘いで敗戦はしたものの、チームにとって良い材料を得ることができました。選手自身も今回の経験を大切にしています。チームはこれからインターハイでの活躍を目指して練習に励みます。1日1秒を大切に練習し、もう一度全国の頂



55kg級 タックルで攻める小西君

点を目指します。日頃より応援して下さる皆様には本当に感謝申し上げます。

(レスリング部顧問 金淵 清文)



74kg級 果敢に攻めるキャプテン川原君

大会結果

団体戦	3回戦敗退
多度津高校（香川県代表）	4対3
館林高校（群馬県代表）	2対5
個人戦	
60kg	葛西飛駿 初戦敗退
84kg	中森智成 初戦敗退
84kg	小野滉貴 初戦敗退

平成24年度卒業式 — 創立40年節目の年 —

春の到来が待ち遠しい3月3日(日)午前10時、多くの来賓の方々、保護者を迎えて、本校体育館に於いて平成24年度卒業証書授与式が行われた。

今年度の卒業生102名は、担任から一人ひとり名前が読み上げられ、大きく堂々とした返事とともに立ち上がり、声は静まった体育館に響いた。

賞状授与では、田島健志君(十和田中学校出身)が理事長より、瀬川華蓮さん(野辺地中学校出身)、類家卓人君(五戸川内中学校出身)は学校長より、また、前日にも延べ60名が在学中の努力の成果によりそれぞれ表彰状を手渡された。

学校長は祝辞の中で、「自分の歩む道

を信じ、一步一步確実に歩を進めること。また、常に広い視野を持ち、創意工夫しようという意欲をもって、自分を大切にするとともに他をいたわり思いやりの心、温かい心をもって進んでほしい」と激励のメッセージを送った。

理事長、野辺地町町長も共に、「未来に向かって邁進する強い気持ちで未来を切り開いてほしい」と卒業生へのメッセージを伝えた。

在校生の送辞の後、卒業生を代表して瀬川華蓮さんが「仲間と過ごした日々の思い出、生徒会活動で得た実行力、また部活動で乗り越えた試練が自信につながり、自分を成長させる経験となり、大切な宝物となった。この学校で活動できたことを誇りに思う。」と在校生へのメッセージと、出席者に対する感謝と決意の言葉を述べた。

式を終えた生徒達の中にはすすり泣く姿も見られ、いつになく神妙な面持ちでホームルームに臨み、最後の別れの時を惜しんでいた。

平成24年度の卒業生は創立40周年の節目の年に学び舎を巣立つことになる。また校名変更に伴い、「光星学院野辺地西高等学校」としては最後の卒業生になる。この二つのことで記憶されるだろう。それぞれの進路に向け、3年間朋友と過ごした学舎をあとに巣立っていった。



スキー・スノーボード教室

2月22日(金)、本校恒例のスキー・スノーボード教室がまかど温泉スキー場で行われた。

時折雪は舞うものの好天に恵まれ、近年稀にみる絶好のコンディションの中、1学年、2学年対象のスキー・スノーボードの講習(午前)およびフリー滑走(午後)を実施した。

この行事の目的である「雪国のハンディを克服し自然とのかかわりの中で、体力の向上を図るとともに、生徒とのコミュニケーションを深める」のもと、技

術のレベルに応じて初心者、初級者、中級者、上級者の各グループに分かれ、スキーではまかどスキースクールのインストラクター(講師)、スノーボードでは本校教員から技術指導を受けた。基本の徹底と技術向上を目標として半日講習を行ったが、インストラクターの指導の下、参加者は一生懸命、真剣な表情で滑っていた。

午後のフリー滑走では、時間いっぱいまで滑る者もいれば、途中で疲れて休んでいた者もいたが、どちらも技術向上を

果たし、生徒と先生とのコミュニケーションがさまざまな場所で見受けられ、楽しく充実した一日となった。

また、スキー教室欠席者対象で3月8日(金)に行った講習は、午前のみではあったが、出席した生徒達は技術講習に汗を流した。

参加した生徒の感想は「スキーって楽しい」「来年はスノーボードに挑戦したい」など充実した講習となり、生徒に満足してもらえるものとなった。



真新しい制服と共に、新たなスタート

—— 平成 25 年度入学式挙行 ——

4月8日(月)、真新しい制服に身を包み、緊張した面持ちの新入生を迎えて、平成25年度入学式が、野辺地町町長をはじめ多数のご来賓、保護者の出席のもと、本校体育館において行われました。

新入生一人ひとりの名前が読み上げられ、自分の名前が呼ばれると力強く元氣

な返事をし、校長から104名の入学が許可されました。

齋藤校長は「校名が変わり、新たな1ページ作る君たちには、毎日の暮らしの目標を持って過ごしてほしい。」と式辞を述べました。次いで、学院主から激励の訓示、来賓として野辺地町町長から励

ましの言葉を頂き、新入生の諸君は期待と不安・緊張の表情で真剣に話を聞いていました。新入生代表小野寺 葉里さん(南部中学校出身)が、高校生活への決意をこめた宣誓書を力強く元氣に読み上げました。

入学式の後、畑中教頭から学年主任、担任、副担任一人ひとりが紹介されました。先生方は、名前を呼ばれ、簡単なプロフィールを紹介され、新入生同様緊張した面持ちで一礼していました。

教室に戻ると担任の先生方は、新入生と保護者を前にガイダンスを行い、新たなスタートを切りました。

また、この日は入寮式も行われ、新たに10名の入寮生を迎え、寮長の須藤 和君(黒石中郷中学校出身)が「寮生活におけるルールを守り、勉学と部活動の両立を目指して、共に頑張っていきたい。」と歓迎の挨拶を述べました。新入寮生を代表して小笠原 晴樹 君(百石中学校出身)が「ルールを守り、先輩方と充実した寮生活が送れるよう頑張ります。」と力強く宣誓しました。



交

通

安

全

講

話

4月11日(木)、講師に野辺地警察署交通課係長の雪田 正和氏を招いて、「守っていますか 自転車の交通マナー」と題して講演していただいた。

自転車事故の事例DVDを見た後に、雪田係長さんから「近年自転車の事故は増えており、自転車に乗っていて加害者になることも少なくない。また、野辺地地区においても自転車に関わる事故が発生している。しっかりと交通規則とマナーを守ることが、歩行者の命と自分の命を守ることになる。」と話された。

最後に、生徒会の櫻庭佑緑さん(青森東中学校出身)が、「不注意で被害者の人生を奪ってしまうのです。交通事故を軽く見ないでください。とても恐ろしい犯罪です。」という交通事故で息子さん进行を亡くした方のメッセージを読み上げた。



八戸学院短期大学附属幼稚園

いつでも子どもが出発点の幼稚園

小春日和の3月15日に年長児58名が目をキラキラさせ、堂々と胸を張って卒園しました。学童期は、「手を離して、目を離すな」と言われていますが、親としては不安ながらも我が子の手を離し、自分で考え、行動できるように目を離さずそっと背中を押してあげてほしいものです。今、子ども達はそっと背中を押され、

夢や希望に胸を弾ませながら新たなスタートに一步步歩き出している事とします。幼稚園は、入園式を終えた次の日から、子ども達の元気な声で園内はとても賑やかになりました。今はまだまだ思い思いの活動ですが、子ども達の小さな出発が始まりました。周りの大人は「あたたかく、やさしく」見守り、一人ひとりの成長を楽しんで

いきたいものです。

幼稚園は、子どもが初めて出会う学校であり、遊びの場でもあります。すべての事が初めての経験となり「初めの一步」に繋がる幼稚園が、いつでも子どもが出発点であるように常に子ども達の目線に立ち、心は保護者の皆様の気持ちに

寄り添って見守っていきたいと考えています。



八戸学院短期大学附属幼稚園聖アンナ

新年度を迎えて ～子ども同士の中で育っていく～

新園児を迎えると、年長児は、新しい子たちの面倒を実に良くみてくれます。やさしく上履きを履かせたり、腕を通す所を教えながら洋服の着る手伝いをし、泣いているとそばにいて慰め、涙を飲んであげ、水をこぼすと拭いてあげそれは、自分が知っていることの最大限を至

れり尽くせりしてくれています。新しい子たちは、安心して大きい子のすることを見ています。時にはやれなくても「やれる!」「一人で!」。

目の前に年齢が違う子がいるというだけで思いやったりやさしくしたり。大きい子は信頼されたり憧れをいだかれたり。

年少だった子も小さい子が出来ることで、自分に出来ることを探そうとする様子が見られます。まだ生活し始めですが、共に過ごすことで、もっと自然に仲間を観察し、模倣し、見て学んでいけるようになる今から楽しみにしています。



八戸学院短期大学附属幼稚園第二しのものめ

☺ げんきに大きくなあれ ☺

5月の青い大空に気持ちよさそうに泳ぐ「こいのぼり」

この時期の子どもたちは、進級・入園と環境の変化もあり、少し心細かったりしている場面に出会うことがあります。幼稚園では、身体をいっぱい動かして遊び

こんだり、お日様の光を浴びて、風を感じて走ったり、砂や土に触れ、心ゆくまで、楽しむことを大切に過ごして欲しいと様々な環境に配慮しています。

幼稚園の教育は環境を通しておこなうこと自分の気持ちが他の人とも通じ合え

る喜び、それぞれの表現の違いも「らしさ」になり「良さ」として豊かに育つことが私たちの願いでもあります。

大空に悠々と泳ぐこいのぼりのように大きく逞しく育って欲しいと願います。



八戸学院短期大学附属幼稚園びわの



最後の卒園式 -35年の歴史に幕-



八戸短期大学附属びわの幼稚園第35回修了証書授与式が2013年（平成25年）3月16日（土）同幼稚園ホールで執り行われた。

授与式は前PTA会長中谷純逸（現野辺地町々長）様をはじめ、多数のご来賓のご臨席を賜り、全園児のご父母が見守る緊張した会場で卒園児11名、年中児4名、年少児7名の全員の氏名が読み上げ

られ、園児たちは一人一人しっかりと返事を返しました。

園長からは、「子どもたちは明るくのびのびと優しい子に育ってくれました。これからもお友だちと仲良くできる優しい子になって欲しい。」と式辞が述べられ、1,374号の最後となった卒園証書を胸に抱き、この学び舎から巣立って行き

これまでご指導を仰ぎ、また、お世話をいただき支えてくださいました多くのの方々、関係各位に心より感謝申し上げ、そして、何よりもお子様方の健やかなご成長と皆様方のご健康・ご多幸を心からお祈り申し上げ、最後の修了式終了と4月1日付けびわの幼稚園休園をご報告申し上げます。

本当にありがとうございました。衷心より感謝申し上げます。



ました。

本園、昭和53年の創立以来35年間、ここ枇杷野の地で教育活動に取り組ませていただきましたが、惜しまれながら在園児11名もこの4月転園することとなり、去る3月31日を持って35年間の歴史に幕が引かれました。



2013年（平成25年度）スタート 八戸学院

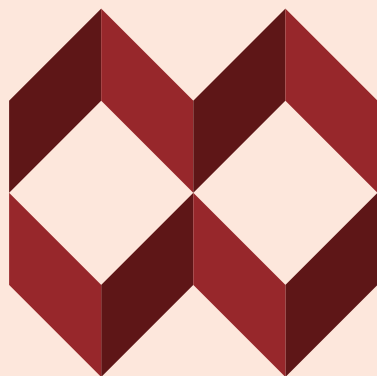
八戸学院大学



八戸学院短期大学



八戸学院光星高等学校



HACHINOHE GAKUIN



八戸学院野辺地西高等学校



八戸学院短期大学附属幼稚園



八戸学院短期大学附属幼稚園
聖アンナ



八戸学院短期大学附属幼稚園
第二しのみめ